

授業改善のポイント

(その1)

～ 英語科におけるよい学習課題とは？ ～

「学習課題」の良し悪しで、授業が大きく変わるって言われていますが、英語科におけるよい学習課題ってどんなものですか？



平成25年度実践事例集「今、めざしたい授業」(会津教育事務所)の英語の実践例により例があるので見てみましょう。

A 中学校の実践例

1 単元名 NEW CROWN ENGLISH COURSE 1 Lesson 7 Wheelchair Basketball

2 ねらい (本時)

ドラえものの秘密の道具について説明する活動を通して、助動詞 can を効果的に用いて、ドラえものの道具のよさについて英語で伝えることができる。

3 指導過程 (導入)

※ あいさつ等は省略します。

学 習 活 動

○ 本時の課題把握

(1) ALTからのメッセージを読む。

(2) 課題提示

課題

ドラえものの秘密道具の説明書を作ろう。

・ALTからのメッセージを読む活動
・メッセージの内容は、ドラえもののポケットの中身を教えてほしいというもの
・前の単元で生徒が作成した「ドラえもん新聞」をALTが読んで興味をもったという設定

この授業は、活用型の言語活動が中心で、教師の意図は、can を効果的に活用しながらまとまった複数の英文を書く活動をすることでした。

教師が課題提示するや否や「早く書きたい!」とワクワクする生徒たち。各自がドラえものの秘密道具を選択し、積極的に説明文を作成し、様々な表現が出されました。「canって動詞の前?」「canの後ろの動詞には三単元の-sはつかないよね。」などと文法や文構造について、生徒同士で確認し合う場面もたくさん見られました。



本事例から見える

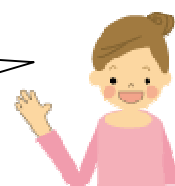
英語科におけるよい学習課題とは



- 課題解決への必然性がある。
- 課題につながる「資料」や「活動」が準備してある。
- 多様な表現を引き出すことができる。

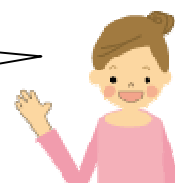
と考えられます。

ALTの“ドラえもののポケットの中身を教えてほしいというメッセージを読むことで、「説明書を作る」という必然性が生まれたようですね。



そのとおりです。このように、課題解決への必然性をもたせるためには、**課題につながる「資料」「活動」を準備しておく**ことが大切です。本事例では、ALTのメッセージが、生徒が前単元で作成した「ドラえもん新聞」に対するものであったという点も、生徒の意欲をさらに高めました。

「can を使って書こう。」と使用表現等を限定しないこともよかったですと思います。



本事例の学習課題は、生徒が必然的に can を使わなければ解決できないものになっていました。使用表現等を限定しないことで、

This is Takekoputa. It looks like just a Taketonbo.
You put it on your head. You can fly in the sky.

等と can を使用した文以外も、**多様な表現を引き出す**ことができました。特に、総合的な活用型の言語活動を行う場合、本事例のように使用表現等を限定しなくとも、教師のねらいが達成でき、かつ、生徒の表現活動が幅広く展開されるように学習課題を設定するとよいでしょう。

また、生徒それぞれに、書きたいものを自由に選択させて取り組ませたこともとても効果的だったと思います。

ちなみに、この授業のまとめの段階では、それぞれの説明書を交流した後に、教師が工夫された表現を紹介しました。ねらいは、can を使った表現活動でしたので、細かい間違いは訂正しませんでした。can に関わる文法事項を再確認する等、丁寧に進められました。